

小路さんぽ × 民話ゆうき

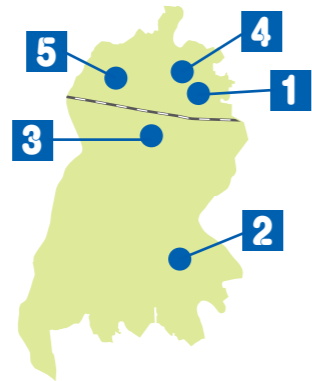
民話とは、長い年月をかけて、口承（口伝）で語り継がれた話のことをいいます。

民話ゆうきは、「この地方に言い伝えられている話や、結城にまつわる話などを集め、郷土理解を深め郷土愛を育てたい」という想

いから、当時の小中学校の児童・生徒を通じて、各家庭や近所の高齢者に呼びかけ、民話の収集・採録・文章化の作業を経て、昭和53年に一冊の本にまとめたものです。

今回は、民話ゆうきとともに、少し不思議な結城をみてみましょう。

問 市生涯学習課 文化係 TEL 32-1931



1 田んぼの月

あらすじ 若い百姓の男が、夜道、小埸の祠近くで泣いていた美しい女に出会います。

女は男に「病気の母を助けたいのでお金を貸してほしい」と頼みます。男は女の着物のすそから狸のしっぽが出ているのを見て、女の正体が狸だと気づきます。

それでも男は、真剣に頼み込む狸の姿を見て、事情が本当かもしれないと思い、お金を渡しました。その優しさに心を動かされた狸は、お金を返しに来ます。

別の日、男は夜道を歩いていると、夜空に浮かぶ月と稲田すれすれに浮かぶ赤いもう一つの月を見つけた。赤い月は、徐々に大日堂の一本杉の根元へ沈んでいきました。

次の日、大日堂の一本杉の根元で若い狸の亡骸（なきがら）が見つかりました。

人々は田んぼの月は、狸の生まれ変わりであると語るようになりました。

赤い月に化け狸
心やさしい男が、あえて騙されることで、人を騙そうとした狸の心境を変えるという話です。



大日堂跡地（城跡歴史公園からも見ることができます）



幻想的な狐たちの花嫁行列

狐の花嫁行列は、さまざまな作品で、取り上げられます。実際に、狐たちが、花嫁行列をしていたらと想像すると、とても幻想的です。人間の文化を取り入れた狐たちは、無数の怪しい灯火とともに、どこへ向かうのでしょうか。

2 狐の嫁入り

あらすじ 上山川の田んぼの中の小さなお宮に、小さなケヤキの木が一本立っていて、夜遅くに近くを通ると狐に騙されるという噂がありました。

その場所では、たくさんのキレイな提灯が、列になって、田んぼに向かって動くところを度々目撃されていました。その光景を村人は、「狐の嫁入り」と呼びました。

また、提灯が点滅する様子は、狐の呼吸という方もいたといひます。

彩り豊かな半纏を羽織って気取った歩き方をする狐を先頭に、着飾った花嫁姿の狐を、たくさんの狐がはやし立てながら歩いていたといわれていました。



森の先の不思議な空間

お堂までの参道には、数個の石碑があり、神秘的な雰囲気があります。「城内（中世武家屋敷跡）」として、結城百選に選定されています。発掘調査によって、室町時代頃の館があったと考えられています。

4 夢の財宝

あらすじ 結城家は初代の結城朝光から18代にわたり繁栄してきました。そのため、お城の土中には金銀財宝がたくさんあるといわれてきました。

昔、ある男性が、枕元に立つ杖を持った白髪の老人に、結城の城下の財宝を探そうと促されたという、不思議な夢を見たそうです。何度か同じ夢を見るようになり、結城の歴史を調べるうちに、興味を持ち、財宝の発掘を試みたといひます。

しかし、何も見つからず発掘は中止となりました。現在、城跡歴史公園近くにある三日月橋は、そのとき架けられたものといわれています。



結城家にまつわる埋蔵金

日本には、三大埋蔵金といわれるうちの一つが今回の結城家に関するものといわれています。聡敏神社の周辺は、サクラの木がたくさん植えられていて、たくさんの自然があふれる場所です。



少しお茶目なお地蔵さん
口元についていた豆腐の食べかすをうっかり拭き忘れてしまったお地蔵さん。不思議な話ですが、怖さはなく、少し可愛らしい印象です。実物は、現在も弘経寺にあります。

5 化け地蔵

あらすじ 弘経寺の近くに酒屋と豆腐屋がありました。ある雨の降る夜、傘を着て、笠を被った不思議な一人の男が、豆腐を売ってほしいと「とっくり」を片手に豆腐屋を訪れました。

豆腐屋は「とっくり」には入らないと断りますが、男があまりに熱心に頼むので、不思議に思いながらも、男に豆腐をあげました。豆腐屋は、帰る男のあとをこっそり付けてみましたが、弘経寺の地蔵尊で見失ってしまいました。

次の日の夜、「ざる」を持った一人の男が、酒を売ってほしいと酒屋を訪れました。酒屋が「ざる」に酒は入らないと断りますが、男があまりに熱心に頼むので、「ざる」に酒を注ぐと、不思議なことに、お酒は一滴もこぼれなかったといひます。酒屋は、帰る男のあとを付けますが、弘経寺の地蔵尊で見失ってしまいました。

翌朝、酒屋が地蔵のもとへ行くと、地蔵の口元にはたくさんの豆腐の食べかすがついていたそうです。

地蔵の化身と考え、人々は地蔵尊のことを化け地蔵と呼ぶようになったといひます。



今回、紹介した話は一部です。石島建設プラネットホール・ゆうき図書館には、「民話ゆうき」の本があります。ぜひ、「民話ゆうき」を読んでみて、一風変わった結城の小路さんぽを楽しんでみてはいかがでしょうか。

